



シリーズ 腸内細菌叢「入門から臨床まで」

「入門から臨床まで」の開始にあたり

しん じょう まさ よし
新 庄 正 宜
Masayoshi SHINJOH (SHINJO)

本年1月号に、腸内細菌叢に関する新書の書評を書かせていただきました。その際、この書を読みながら、「モダンメディアでも初心者向けから専門的な内容までを網羅したシリーズをぜひ立ち上げたい!」と強く思いました。

早速、編集委員や小児の腸内細菌叢研究の第一人者である金子一成先生ともご相談し、ご執筆の候補の先生を含めて企画を具体化しました。

「腸内細菌叢」については、これまで「モダンメディア」でも時折取り上げてきました。本シリーズとしては、2023年(69巻)以来、久しぶりの掲載、初のミニシリーズとなります。

腸内細菌叢を構成する主要な4つの門(Bacillota (Firmicutes)、Actinomycetota (Actinobacteria)、Bacteroidota (Bacteroidetes)、Pseudomonadota (Proteobacteria))や、「プロバイオティクス」(有益な微生物)、「プレバイオティクス」(その“エサ”)、「ポストバイオティクス」(酪酸などの有益な代謝産物)、「ディスバイオーシス」(腸内細菌叢の乱れ)といったキーワードについても分かりやすく解説していただきます。さらに、新生児から成人までの腸内細菌叢の変化や、感染症、アレルギー疾患、神経疾患などとの関係を掘り下げた記事を含め、合計5編のミニシリーズとしてお届けする予定です。

書評にも書いた通り、私自身、この分野についてはまだまだ勉強中です。

だからこそ、初心者にも分かりやすく、そして専門家にも新たな発見があるような企画を目指しています。

どうぞご期待ください!